

iX(イクス)
リリースノート

リリース日
2019年8月1日

【iXバージョン】
V7.0up66b34637

■【新しい機能】

- ・UEFI boot mode support
- ・Mellanox ConnectX-4 and ConnectX-5 40/100GbE driver (mlx5_core, v4.4-2.0.7)
- ・Kdump (kernel crash dumping mechanism)

■【更新情報】

- ・Kernel 4.4.45
- ・LSI / Avago / Broadcom 6/12Gb MegaRAID SAS driver (megaraid_sas v07.707.03.00)
- ・QLogic FastLinQ 4xxxx 10/25GbE driver (qed, v8.37.15.0)
- ・Intel 10GbE Network Controller driver (ixgbe, v4.5.4)
- ・QLogic Network Controller driver BCM5771x/578xx (bnx2x, v1.713.36)
- ・Emulex OneConnect Network Controller driver (be2net, v11.2.1226.2)
- ・Intel 1GbE Network Controller driver (e1000e, v3.3.5.3)
- ・Intel 1GbE Network Controller driver (igb, v5.3.5.4)
- ・Mellanox ConnectX-3 driver (mlx4_core, v4.4-2.0.7)
- ・ATTO Celerity 16GB Fibre Channel Adapter driver (celerity16fc, v1.60)
- ・ATTO Celerity 8GB Fibre Channel Adapter driver (celerity8fc, v2.01)
- ・HP Smart Array Controller driver (hpsa, v3.4.16-145)
- ・Emulex LightPulse Fibre Channel driver (lpfc, v0:11.2.156.18)
- ・Intel(R) C600 Series Chipset SAS Controller driver (isci, v.1.1.0)
- ・KVM drivers for paravirtualized hardware (virtio-net, virtio-scsi)

■【不具合修正】

- ・UTF エンコードされた文字がコンソールに正しく表示されない。
- ・いっぱいになったスナップショットからの I/O エラーがフェールオーバーをトリガーする。
- ・SSL 証明書は再起動のたびに再生成される。
- ・7 文字に制限された電子メールアドレスのトップレベルドメインシステムの信頼できる証明書ストアにこ

の証明書をインストールした後も、Web-GUI SSL 証明書は信頼されないと認識されます。

■【既知の問題】

- ・仮想マシンとして DSS V7 を使用する場合、ボンディング ALB ALB ボンディングはサポートされていません。別のタイプのボンディングを使用してください。
- ・SMB プロトコルのバージョンが 2 から 3 に変更されるため、更新前にクライアントのマシンにマップされていた Samba 共有が使用できなくなります。
- ・ADS 認証方法を使用する場合、GUI 機能「グループのメンバーのクォータ」が正しく機能しません。GUI 機能「ユーザークォータ」を使用してください
- ・PDC 認証方法は、Windows NT にインストールされたドメインでのみ機能します。
- ・Mac OS NFS クライアントで NFS フェールオーバーを使用する場合は、次を使用してください
マウントコマンド: `mount -t nfs -o hard, udp IP:/ share_name / destination_directory`
- ・アクティブな Areca Raid Storage Manager に問題がある場合、制限されたポートでの Web ブラウザーの接続を許可する必要があります。Firefox を使用する場合: 新しいタブで `about:config` と入力し、右クリックして[新しい設定を追加]を選択し、名前ダイアログに値 6667 の `network.security.ports.banned.override` を入力します。
- ・新しいバージョンに更新すると、Memtest86 +は更新されません。この場合、準備された USB スティックまたは CD の Memtest86 +を使用してください。
- ・e1000e ドライバパラメータを変更する場合、存在しないファイルまたはディレクトリに関する情報を画面に表示できません。変更されたパラメータは、システムの再起動後に適用されます。
- ・データ(ファイル)レプリケーションタスクの作成時に暗号化された接続を選択した場合、「データ(ファイル)レプリケーションエージェント設定」フォームの「アクセス IP を許可」機能が機能しない。
- ・UPS の構成後、UPS が正常に機能するかどうかを確認するために手動テストを行う必要があります。一部の環境では、GUI の UPS ステータスが正しく設定されていなくてもオンラインで表示されることがあります。
- ・フェールオーバーサービスの開始時にバックアップエージェントを使用できません。
- ・Myricom カードの古いバージョンは不安定に動作する可能性があります。
- ・CLI / API の関数「`nas_user_rename`」は内部エラーを返しますが、アクションは正常に終了します。
- ・SW RAID メタデータを含むディスクに DSS をインストールすることはできません。
- ・環境によっては、Adaptec maxView Storage Manager のヘルプリンクが機能しない。
- ・maxView Storage Manager のデフォルトの aac ユーザーパスワードを変更することはできません
- ・レプリケーションリンクが同時に中断された状態で ping ノードへのアクセスがないためにフェールオーバーがトリガーされた場合、永続的な予約の同期はありません。
- ・ホストのバインド後に永続的な予約ステータスが更新されない場合があります。
- ・DSS V6 バージョン 6.0up95 以前からアップグレードする場合、ユーザーが変更したドライバーオプションで問題が発生する可能性があります。システムの起動中に適切に設定されません。解決するには、コンソール画面に移動し、「`ctrl-alt-t->`ドライバーオプションの変更」と入力して、設定をもう一度適用してくだ



さい。設定は以降のバージョンでも適切に保持されます。

- ・NIS サーバーと UID および GID データベースの同期が正しく機能しない
- ・同じフォレストに複数のドメインコントローラー (DC) がある場合、それらの DC の 1 つへの接続が失われることがあります。
- ・FC HBA が INITIATOR モードの MPIO モードは機能しません。MPIO は FC TARGET モードで機能します。
- ・デフォルトのボリュームグループを変更した後 (デフォルトのボリュームグループを選択)、現在の設定は保持されません。現在の設定を保持するには、VG を切り替えてこれらの設定を復元する前に、WebGUI の設定保存機能を使用します。その後、システムを再起動する必要があります
- ・FC を管理するためのリモートおよびコンソールツールが機能しない
- ・ダウングレードの場合は、ボリュームレプリケーションタスクとフェールオーバーサービスを再度構成する必要があります。そうしないと、正しく動作しない場合があります。